札幌市博物館活動センター情報誌 ミューズ・レター
Muse Letter
北・その自然と人
札幌市博物館活動センターは自然史博物館の計画推進のため、市民とともに教育普及活動、展示・交流、調査研究、資料収集保存を行う活動拠点です。

2015. 7 No. 61　発行・札幌市博物館活動センター
〒060-0001　札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階
TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 http://www.city.sapporo.jp/museum/

札幌にもある野生のホップ
～札幌のビール造りの影の立役者～

ホップはビールの商品名や、ラベルにも描かれていることもあり、最近ではガーデニングにも使われるので、どんな姿かたちをしているのか知っている人もいると思います。ビールの香りや苦みをつけるのに使われる種類は和名セイヨウカラハナソウです。(英語名ホップ、以下ホップと表記)札幌は、明治時代に日本で最初にビールが醸された街であり、同時にホップ栽培も私たちの札幌で始まったのです。

そのきっかけは、「野生のホップ」といわれるカラハナソウが北海道内に生育することを発見した人がいたからでした。その人の名はトーマス・アンチセル。本業は地面の下の鉱物資源や地層を調べる地質調査で、開拓使のお雇い外国人でした。地質調査で訪れた現在の岩内町付近(後志地方)でカラハナソウを発見しました。地質学者ながら「日本でもビール造りが盛んになって産業として成り立つのではないか」と予測して、開拓使にホップの栽培を提案しました。いま、札幌がビールの街として国内外で有名になれたのは、カラハナソウがあり、それを見出した人がいたからなのです。

さて、ご当地札幌には「野生のホップ」はあるのでしょうか。当センターに収蔵される標本を見てみると、藻岩山や手稲山で採集されたものがありました(写真)。現在は残念ながら札幌でビール醸造用のホップは栽培していませんが、北海道内では主に富良野地域(十勝地方)でホップが栽培され、品種によって様々な香りと苦みをだすことができるそうです。

今年のビアガーデンでは、そんなホップと札幌の歴史も一緒に飲み干してみてはいかがでしょうか。(山崎)

参考資料　サッポロビールホームページ
http://www.sapporobeer.jp/story/1872/

多年草で、つるを出して他の木などにからまって長くのびる。オスの株とメスの株が別々に生える。花と果実は淡い黄色～黄緑。ちなみに、ビール造りにはセイヨウカラハナソウのメス株が使われる。

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse（ギリシャ語）と通信や手紙を意味するLetter（英語）からMuseLetterと名付けました。

博物館実習で何がかわった？わかった？

札幌市立大学から9人の大学生が学芸員資格のための実習に来ました。実習を通して博物館や学芸員のイメージの変化、博物館との今後の個人的な関わり方についての感想を紹介します。

私のイメージとは違って、展示も企画から設置まで学芸員が全てを行うことが多いと知り、とても驚きました。ただ資料について詳しいだけでなく、より伝わる展示にするにはどうしたらよいのか考え、自分たちで標本や模型を作るということも自然史系ならではと思いました。

自然史系の博物館のイメージは物静かでどちらかと言えば暗い印象でしたが、札幌市博物館活動センターでは、想像していたよりも人との触れ合いが多いと思いました。学びの場である博物館は、子供にとっては未来への出発点になるのだと思いました。私にとって博物館の存在は、好きな場所であり、学びの場所であり続けると思っています。

博物館は日常から離れた別世界の空間というイメージだったのですが、実習で現場の雰囲気を肌で感じて、より多くの人々に開かれた空間だと感じ、自分の中でもより身近な存在となったように思います。学芸員は専門的な仕事を主に行っているイメージだったのですが、実際は様々な力仕事や地道な作業も多く、人々がより学びを身近に感じられるように努力を惜しまず活動しているのだと感じました。

活動センターは、元々は異なる用途だった古い建物を再利用していて、様々な工夫がされていることが印象的でした。また、会話を通じて展示を見るという方法を見て、学芸員にはコミュニケーション能力が必要だと感じました。

実習中、実際に市民の方が活動センターで様々な活動を行っている場面に遭遇し、博物館のイメージが変わりました。展示パネルなどを学芸員が作ることもあり、デザイン力が求められる場面で自分が大学で学んでいることを生かせるのではないかと感じました。今後自分が博物館に能動的に参加して、自分自身の興味を幅広くし、生涯を通して興味を学びにつなげていきたいと思いました。

大学で取れる唯一の資格という理由で履修したが、勉強する中で「デザインをどう博物館や学芸員に結びつけたら良いのか？」と悩んでいました。しかし実習を通して、グッズやPR動画の製作などのデザインで博物館の役に立てそうだと思いました。

仕事をしながらまたは家庭をもち子供を育てながら、ボランティアという形で博物館に関わり続けられたらいいなと思っています。座学で学んだ博物館学と比べ、札幌市博物館活動センターでは積極的に市民と触れ合う活動が数多く、少し意外でした。積極的に参加する子供達を見ていると、このような活動の形は収蔵資料や蓄積されてきた知の活用・伝達の為に非常に有用で大切な関係性だと感じました。

実習で制作した博物館活動センターPR映像をただいま放映中！さわやか、ほのぼの、フォーマルの3種類。

最終日に映像を設置しているところ。

実習で最も実感したことは「市民の方々との距離の近さ」です。学芸員が市民の疑問に答える場面や子どもたちに専門外のことも含めて解説している姿はとても印象的でした。今後の自分と博物館の関わりのキーワードとしては「発信」であるような気がします。地域の独自性をデザインして発信する点で関わり、理想は「土地や気候風土とものづくりの関係性」を博物館と共に考えたいです。

これまで美術館に足を運んでも、博物館に行く機会があまりなく、化石などが展示されているイメージしかありませんでした。しかし、今回実習を経て、市民と「共に創る」機能があると知りました。実習の業務には植物標本の整理など地道な活動が多くありましたが、小さな業務の積み重ねが、札幌の今を記録し残していく活動になると感じました。

十区十色
じゅっく・といろ

白石区

レンガ造りの旧開拓使麦酒製造所
（現サッポロビール博物館（東区））

最初に人が住み着いた安住の台地

白石区といえば、やはり旧仙台藩白石領片倉家家臣団の移住でできた街であり、明治政府による学制施行以前に「善俗堂」という民間の教育施設を立ち上げるなど独自の歴史ある地域です。それだけではなくユニークな自然の特徴をもっています。たとえば、白石区は豊平川と厚別川に挟まれた地区であり、この2つの大きな川の他に30以上もの川が区内を流れている“川と橋”の街でもあります。国内有数の急流河川である豊平川と、その第一の支流である厚別川に挟まれた白石区の北側の低地では、これまでにも大きな洪水や氾濫がくりかえされてきました。しかし、一方では石狩低地帯が東西の両方から押され、“シワ”が寄るように地層が南北方向に波打って、月寒丘陵が形成されました。そして、今からおよそ4万年前の支笏火山の噴火によって発生した火砕流で谷間が埋められ、月寒台地となり、現在の白石区の南側の大半が台地の上にあります。およそ16000年前の、札幌で発見される最も古い人類の遺物である旧石器の全てが月寒台地から出土しています。このことは、氷期が終わった1万年前以降に豊平川が頻繁に氾濫を起こしながら扇状地（札幌面）を形成していた間、この月寒台地こそが洪水などから身を守ることのできる札幌で最も安全な台地であったことがうかがえます。

さらに、川のはたらきによって火山灰から細かな粒子が振り分けられ、低い場所にたまって粘土の地層をつくりました。これが煉瓦（れんが）の原料となり、地域の一大産業として発展しました。その煉瓦は旧道庁の赤れんが庁舎（明治21年完成）や製糖工場（現サッポロビール博物館、明治23年完成）として残されています。平成23年にできた新しいJR白石駅は白石区で取れた粘土を使って焼かれた煉瓦で壁面等が飾られ、白石区と煉瓦の歴史を今に伝えています。（古沢）

行事おしらせ

科学絵本よみきかせ＆学芸員の井戸端サイエンス

8/29（土）14:00～14:30

対象　3歳～大人
申込不要、無料
会　場　札幌市博物館活動センター展示室内
読み手　絵本よみきかせユニット・月et兎（つきとうさぎ）

絵本の後に、科学の楽しいおはなし＋観察 実験 体験

今回のテーマは「クラゲ」。
クラゲってどんな生き物？ウニやヒトデと親戚？！
毒針のしくみは？などについてお話しします。

六代目展示解説員　自己紹介

学生時代、ケニアにて

はじめまして、4月から解説員になりました。松橋杏子と申します。道外出身の私が北海道にやってきたのは8年前、酪農学園大学に進学するためでした。当時は右も左もわからない状況でしたが、野生動物保護管理学や狩猟管理学を学び、野生動物の頭骨の魅力に魅せられたり、狩猟免許を取得したり、色々な仲間ができ今では素敵な北海道ライフを送っています。

小さいころから動物が好きで、好きな事しかしてこなかった私ですが、学生時代に気が付いた事があります。それは夢中になれるものがある事の大切さです。好きな事をとことん調べたり、観察したり、楽しむことで世界がどんどん広がっていくという事です。好きな事、私にとってそれは野生動物です。

野生動物を追いかけ、学生のころケニアに出かけました。そこで野生動物と人との軋轢(あつれき)や密猟について学び、ケニアの貧困や植民地時代の歴史的背景、国際情勢と深く関わりがあることを知り、好きな事を楽しく学んでいたはずが今まで見向きもしなかった歴史や社会、英語を学んでいました。「この世界にある物事は全て関係しあっている」と実感したからなのです。

多くの子供や大人にとって好きなものに夢中になる中で、札幌市博物館活動センターが今まで興味のなかったものに興味を持ち世界を広げていく、そんな場所となることを目標に、日々、創意工夫を凝らし展示室を盛り上げていきます。みなさんのお越しを展示室でお待ちしております！

札幌市博物館活動センターご案内

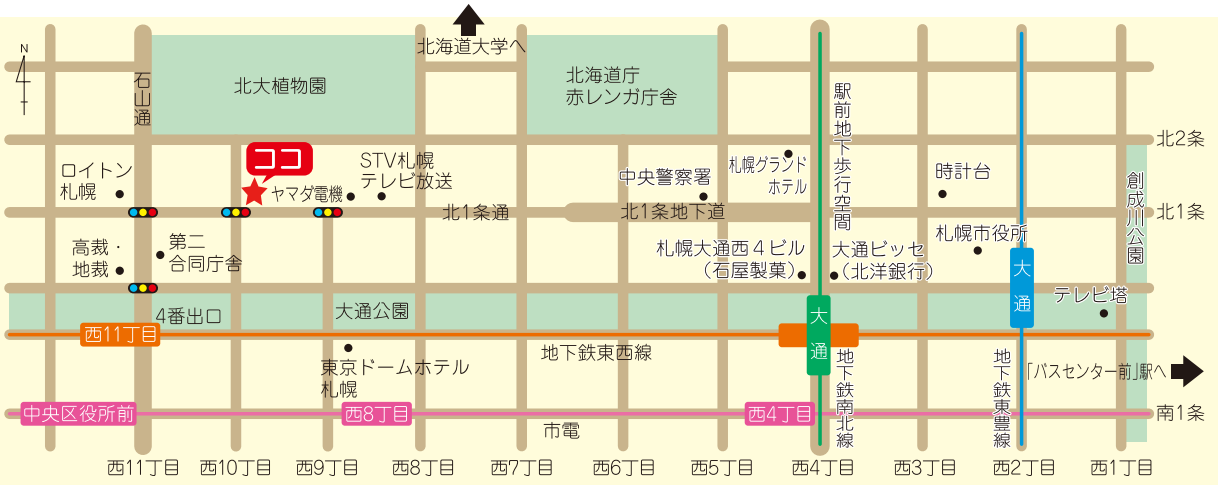
ホームページ http://www.city.sapporo.jp/museum/

2016年4月、平岸に移転します。※平成27年12月29日から移転作業のため一般のご利用をお休みします。

【開館時間】10時～17時【入館料】無料【休館日】日･月曜日、祝日、年末年始（12/29～1/3）

【住　所】〒060-0001　札幌市中央区北1条西9丁目　リンケージプラザ5階

【電　話】011-200-5002　【FAX】011-200-5003　【E-mail】museum@city.sapporo.jp



■公共交通機関をご利用ください。
　<地下鉄>東西線西11丁目駅4番出口徒歩5分。
　<市　電>西8丁目または中央区役所前電停徒歩8分。
　<バ　ス>北1条西7丁目バス停徒歩3分。

■札幌駅前地下歩行空間を大通方面に向かい、北1条地下道へ右折し、最も西側の出口（右手）から地上へ出て、そのままヤマダ電機の方向へ直進、徒歩約5分（合計徒歩約15分）。

編集後記

数年前に夏にドイツに旅行する機会があり、昼からビールを楽しみ、自宅用にビア樽があるという文化を目の当たりにしました。それぞれの街や地域ごとに独自のビールがあり、移動するたびに楽しめました。日本にも地酒や地ビールがあります。地元の人が愛してやまない札幌の「ご当地～」は何か思い浮かびますか？　（ま）

累計来館者数 97,835人
（2015年6月末現在）

さっぽろ市
02-J02-15-1030
27-2-686

VEGETABLE OIL INK　ミューズレターは、再生紙および植物油インキを使用しています。